

イエスのことば 第15回

イエスはまた一つのたとえ話を彼らに話された。「だれも、新しい衣から布切れを引き裂いて、古い衣に継ぎをあてたりはしません。そんなことをすれば、その新しい衣を裂くことになり、新しい衣から取った布切れも古い衣には合いません。まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を裂き、ぶどう酒が流れ出て、皮袋もだめになります。新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れなければなりません。まただれも、古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物が良い』と言います。」(ルカ 5 : 36~39)

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元 27 年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元 30 年の春、過越の祭り）、復活、昇天

□文脈の確認

1. 「承」の部に入っている。イエスが幾つもの出来事を通してメシアとしての権威を現わした時期である。
2. これまでに 8 つの権威を見てきた。
 - (1) 病の癒しに関する権威。カナでの「遠距離かつ即時」の病の癒しであった。
 - (2) 教えに関する権威。ルカ 4 : 32 は記す、「人々はその教えに驚いた。そのことばに権威があったからである」
 - (3) 悪霊に対する権威。イエスが人に憑いていた悪霊を叱って、一言「この人から出て行け」と命じただけで、悪霊は出て行った。
 - (4) 病気に対する権威。シモン・ペテロの義母を慢性的な熱病から瞬時に解放した。
 - (5) 自然界に対する権威。昼間に網を下ろさせて大漁。ペテロたち 5 人の弟子がパートタイムの弟子からフルタイムの弟子へ。6 番目の弟子としてヤコブが加わる。
 - (6) 律法上の汚れに対する権威。ツアラアト患者の清めがなされた。ユダヤ議会が、イエスはメシアである可能性ありと見て、公式調査に入った。
 - (7) 罪の赦しにおける権威。中風の人に、神の立場から罪の赦しを宣言したうえで、病気を癒した。公式調査（観察・審問・判定）は観察段階から審問段階へ。
 - (8) 人に対する権威。取税人レビ（マタイ）を 7 番目の弟子として加え、レビの家でのもてなしを受けて、取税人仲間や遊女と一緒に宴会の席に着いた。調査団からの非難に対して、「わたしは罪人を招いて悔い改めさせるために来た」と言われた。
3. 今回は、人の伝統に対するメシアの権威を見る。

□本日のアウトライン

- A) 調査団からの質問＝断食の伝統を重んじないイエスに対する非難 (ルカ 5 : 33)
 B) イエスの回答＝「断食」の伝統について (ルカ 5 : 34～35)
 C) たとえ話＝「言い伝え」の伝統との関係においてメシアの目的 (ルカ 5 : 36～39)

人の伝統 対 メシアの目的

- A) 調査団からの質問＝断食の伝統を重んじないイエスに対する非難 (ルカ 5 : 33)

ルカ 5 : 33 また彼らはイエスに言った。「ヨハネの弟子たちはよく断食をし、祈りをしています。パリサイ人の弟子たちも同じです。ところが、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」

(1) 下線部「また彼らは」・・・ユダヤ教パリサイ派のラビたちや律法学者たちによって構成される調査団。イエスがメシアであるかどうか、という公式調査をしている。調査は、観察段階から審問段階に進んでいた。

- ① 審問段階に入って最初の質問は、29～32節、「なぜ、あなたがたは、取税人たちや罪人たちといっしょに食べたり飲んだりするのですか」。罪人たちとは、ここでは、遊女たちを指す。
- ② パリサイ人たちの規則では、取税人や遊女との交際を禁じていた。
- ③ パリサイ人たちの規則は、当時書かれたものではなく、ラビたちの「言い伝え」として代々受け継がれていた。この伝承されるラビたちの言い伝えを重んじること、そして断食をよくすること、この2点がパリサイ派の伝統であった。

(2) 「言い伝え」(マタイ 15 : 2、3、6)、「言っている」(マタイ 23 : 16、18)

- ① 旧約聖書の最初の 5 巻は、モーセ五書(トーラー)と呼ばれる。そのトーラーの中に記されたモーセの律法には、613の規定があると言われる。
- ② バビロン捕囚から帰還した後の時代、ユダヤ教の指導者たちは、613の規定の一つひとつに、具体的な行動規則を設けた。その規則を守っておけば、決してモーセの律法を破ることにならないように、である。いわば、律法の外側に垣根を巡らすようなものである。紀元前 450 年から紀元前 30 年頃まで約 400 年かけて第 1 次の垣根が形成された。それらの規則はすべて、律法学者たちによって記憶され、代々口伝にて継承された。
- ③ イエスが登場した時期は、第一次の垣根が出来上がった後で、さらにその外側に、第 2 次の垣根を設けようと、律法学者たちが議論していた時期である。それは紀元 220 年まで続いた。
- ④ 紀元 220 年、ついに記憶している学者がわずかとなり、書き記すこととなった。第 1 次と第 2 次の垣根を書いたものが「ミシュナ」(ヘブル語)、小さな字でびっしりと書かれたページが約 1500 頁。

- ⑤ その後、第3次の垣根が形成され、紀元500年頃に至る。それが「ゲマラ」(アラム語)、その量は、ブリタニカ百科事典に相当する。
- ⑥ ミシュナとゲマラを合わせて編纂されたものが、「タルムード」
- ⑦ 事例・・・出23:19 あなたは子やぎをその母の乳で煮てはならない。
- 第1次の垣根・・・チーズを食べると肉類を食べるのは4時間の間隔をあける、そしてチーズ用の皿と肉類用の皿は別にする。
- (3) 言い伝えによることの弊害・・・垣根の外側にさらに垣根を設ける。
- ① 形式的、外面的な規則がどんどんと増える → 人々の負担が増す(マタイ23:4)
- ② すべて人に見せるため(マタイ23:5)。 → 外側は人に正しく見えても、内側は偽善と不法でいっぱいになる(マタイ23:28)
- ③ 律法をくみ取るのではなく、言い伝えられた規則そのものを守ることが重要になってしまう。ラビたちは、いつまにか、モーセの律法そのものを学ぶよりも、言い伝えを学び、新しい規則を提案し、人々にそれをさせることが重要になっていった。
- 出23:19の本来の意味・・・先住民カナン人の風習(初子のヤギの子を母親の乳で煮て偶像の神バアルへ捧げる)にならうな
- (4) 弊害がはっきりと現れた・・・ルカ5:30、パリサイ人たちは、取税人レビが霊的に新生して、大喜びをしても、それには何の関心も示さなかった。そしてイエスがレビからもてなしを受け、取税人や遊女たちと宴席を共にしたことに、文句をつけた。このようなパリサイ人たちに対し、イエスは言った。「『わたしが喜びとするのは、真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい」(マタイ9:13)。これは、【モーセの律法を学び直して来なさい。律法をしっかりと受け取って来なさい】ということである。
- (5) しかし、調査団のパリサイ人たちは考え直すことをせず、パリサイ派としてのプライド、断食の伝統に立って、イエスに質問を仕掛けてきた。「ヨハネの弟子たちはよく断食をし、祈りをしています。パリサイ人の弟子たちも同じです。ところが、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」
- ① 弟子たちについて問題とされているが、イエスの弟子たちが断食しないのは、師であるイエスの指導が悪いから、と言いたいからである。
- ② パリサイ人が自分たちのことだけでなく、先駆者ヨハネの弟子たちも断食していたことまで持ち出したのは、イエスとヨハネとの関係を踏まえての発言

である。イエスは、ヨハネから水のバプテスマを受けた。また、ヨハネが、イエスをメシアであると証言した。このように両者は関係し、先駆者ヨハネの弟子たちも断食するのに、イエスとその弟子たちが断食をしないのは、おかしいと言いたいのである。

(6) ユダヤ教パリサイ派の断食の伝統

- ① 「週に2度」(ルカ 18:12)・・・週の第2日(月)と第5日(木)
- ② 一般に断食を呼びかけるとき
 - 「3日の断食」=月・木、そして次の週の月
 - 「6日の断食」=1週目の月・木、2週目の月・木、3週目の月・木
連続して3日間や6日間の断食ではないことに注意

B) イエスの回答=断食の伝統について (ルカ 5:34~35)

(1) 34~35節 イエスの回答

イエスは彼らに言われた。「花婿と一緒にいるのに、花婿に付き添う友人たちに断食させることが、あなたがたにできますか。しかし、やがて、時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」

- ① 下線部「花婿に付き添う友人たち」=直訳「婚礼の式場の子ら」
- ② 人が結婚式の宴会に来るのは、断食するためではなく、祝うためである。
- ③ メシアは「花婿」である。その花婿が今、ここにいる。花婿がここにいる間は、断食する理由は何もない。
- ④ 花婿が取り去られる時が来る。「取り去られる」は、通常、死を意味する。その時が来れば、イエスの弟子たちも断食する。

(2) 断食について

- ① ユダヤ教パリサイ派の伝統における二つの特徴は、断食と言ひ伝えである。
- ② パリサイ派だけでなく、イエスの先駆者であるバプテスマのヨハネの弟子たちも、たびたび断食をした(マタ 9:14)。
- ③ ただし聖書の中に、断食せよと命じられている箇所は、ない。
- ④ この箇所でのイエスの教え
 - 断食そのものは否定しないが、今は断食する時ではない。メシアが来ているのであるから、本来、イスラエルの民は喜ぶべき時である。
 - イエスの弟子たちは、今は、断食していないが、彼らも断食する時が来る。それはイエスが取り去られる時(死ぬ時)である。

(3) イエスとその弟子たちは、ユダヤ教パリサイ派の断食の伝統には縛られない。

C) たとえ話＝「言い伝え」の伝統との関係においてメシアの目的（ルカ 5：36～39）

(1) 36～39 節 たとえ話

イエスはまた一つのたとえ話を彼らに話された。「だれも、新しい衣から布切れを引き裂いて、古い衣に継ぎをあてたりはしません。そんなことをすれば、その新しい衣を裂くことになり、新しい衣から取った布切れも古い衣には合いません。まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を裂き、ぶどう酒が流れ出て、皮袋もだめになります。新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れなければなりません。まただれも、古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物が良い』と言います。」

- ① 下線部「彼らに」・・・イエスの弟子たちではない。パリサイ派で構成される調査団に対して語られた。
- ② 当時のパリサイ派の共通認識・・・自分たちが議論し、形成している第2次の垣根はまだまだ、穴だらけ、ほころびばかり。しかし、メシアが来たら、完璧な垣根を提供してくれる、と期待していた。

(2) そのようなメシア像に対して、イエスは、垣根の穴をふさぐために来たのではない、と宣言した。36 節から始まるたとえ話は、パリサイ派の人たちにはイエスの意図が容易に理解できる内容である。

- ① 36 節 「古い衣」、「継ぎを当てる」・・・これを聞いてパリサイ派の人たちが思い浮かべるのは、第2次の垣根の穴である。
 - 古い布地の衣に継ぎを当てようとするなら、新しい布切れは使わない。新しい布切れと古い布地では、洗濯したときの収縮度が違う。縫い合わたつもりでも、合わなくなってしまうか、古い衣の破れをさらにひどくする。
 - イエスが提供するの新しい衣であり、その新しい衣をわざわざ裂いて布切れをつくり、その布切れで古い衣、すなわち「言い伝え」の穴に継ぎを当てるようなことはしない。
- ② 37 節 「古い皮袋」、「裂ける」・・・ワイン醸造用の皮袋は、何回か使っているうちに、古くなって柔軟性を失う。そうになると、ぶどうジュースを入れてワインを作るためには適さない。もし古い皮袋にぶどうジュースを入れるなら、発酵過程で膨らむうちに、古い皮袋は耐えきれずに裂け、穴があき、中のぶどう酒が流れ出てしまう。古い皮袋は、水入れに利用する。
 - 古い皮袋は、裂けやすく、穴が開きやすい。ここからパリサイ派の人たちが連想するのは、①と同様に第2次の垣根の穴である。
 - イエスが提供するの、新しいぶどう酒であり、それはパリサイ派の伝

統の枠に押し込めるものではない。

- ③ 38節 ①と②を総括して、イエスは「新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れなければならない」と言った。
- 新しいぶどう酒・・・イエスが提供しようとしている何か新しいもの
 - 新しい皮袋・・・それを人々に与えるための何か新しい方法
 - 古い皮袋・・・律法の外側に垣根を設け、さらにその外側にも垣根を設けるという方法。より具体的で、より抜けの無い規則を作って、それらの規則を守ろうという方法。これは、人の伝統に従い、多くの人々から賛同と称賛を受ける方法である。
- ④ 「新しいぶどう酒」と聞いて、パリサイ派の人たちが連想するのは、「古いぶどう酒」＝モーセの律法である。言い伝えの中の1節に、「トーラーの教えは、最初に心の中に入れたときは、さほど味がしないが、時を経ていくとその人の中で熟成していき、古いぶどう酒のように深い味わいとなる」というのがある。

- (3) イエスは、自分がメシアとして来た目的は、新しいぶどう酒を提供するためだと言う。ここで、パリサイ派の人々には次の疑問が沸き起こる。それなら、古いぶどう酒であるモーセの律法はどうするのか？

- ① イエスは 39節で、次のように言った。「まただれも、古いぶどう酒を飲んでから、【今すぐ】新しい物を望みはしません。『古い物が良い』と言います。」
- 古いぶどう酒・・・パリサイ派の人たちが連想するのは、「モーセの律法」
 - 【今すぐ】新しい物・・・これは、これからイエスが提供しようとしている新しいぶどう酒ではない。今すでにある「新しい物」である。それは、モーセの律法よりも後に人が新しく作った規則＝律法の 613 の規定の外側に設けた垣根＝パリサイ派の言い伝えである。

※【今すぐ】は原文にあるが日本語訳聖書には訳されていない。

- ② モーセの律法を心の中に受け入れるなら、パリサイ派の言い伝えなど誰も飲みたいとは思わない。マタイ 9:13 の【律法を学び直して来なさい】とつながる内容である。
- ③ イエスは、古いぶどう酒であるモーセの律法は『良い』と宣言した。この宣言の背後にある意図は、メシアの二つ目の目的につながる。それは、モーセの律法を完全に守るというメシアの使命である。